

ぎふ経済レポート



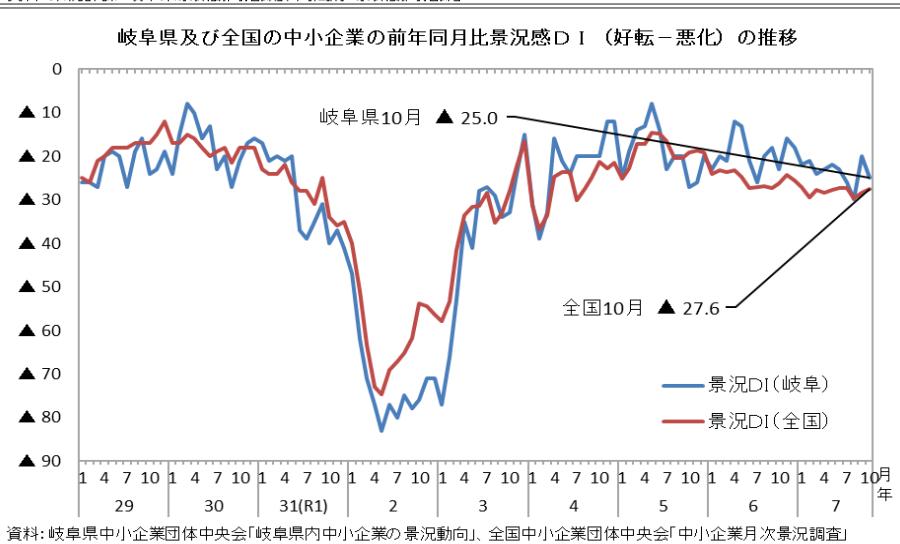
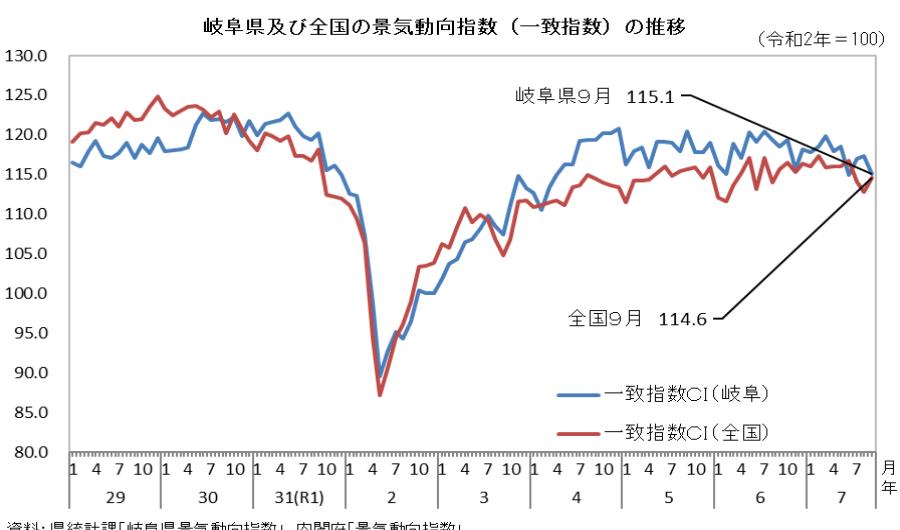
令和7年11月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは11月21日～26日を中心に実施し、12月18日時点で作成。

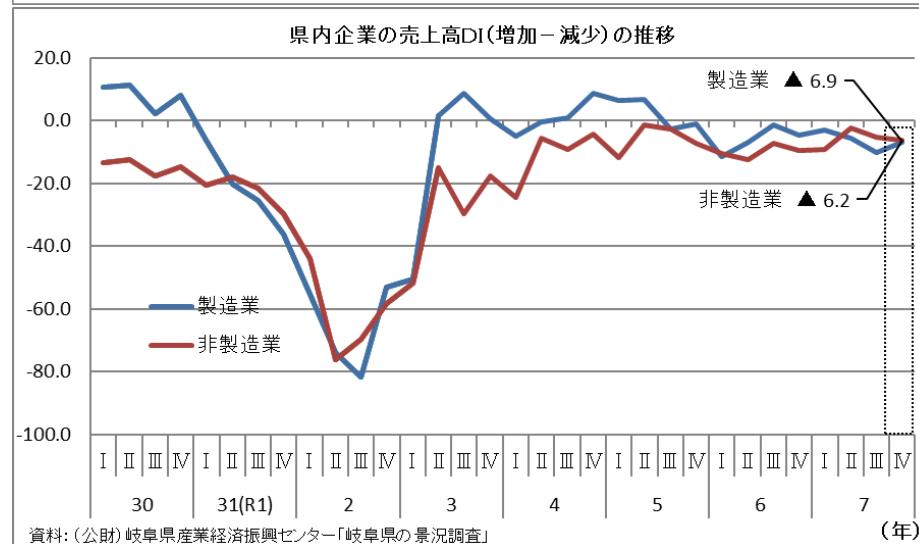
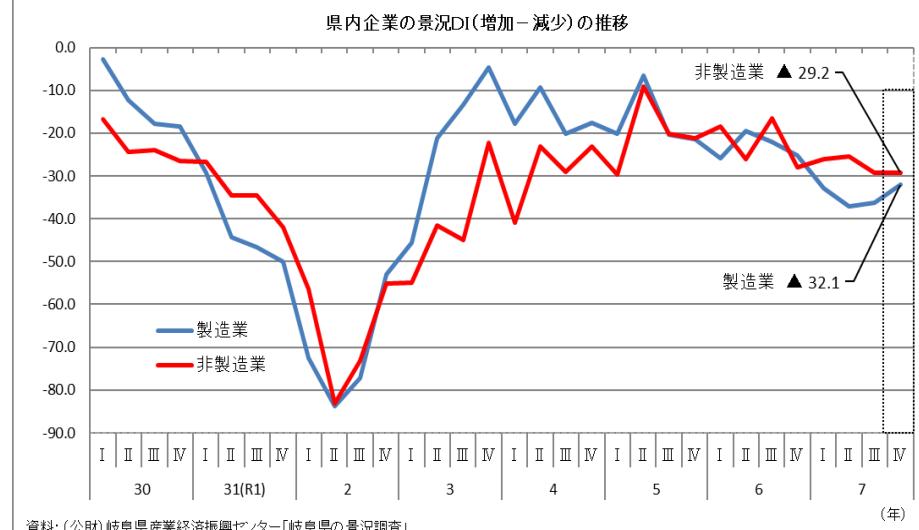
景氣動向

○9月の景気動向指数(一致指数)は、115.1で前月比▲2.2ポイントとなった。

○10月の県内中小企業の景況感は、▲25.0で前月比▲5.0ポイントとなった。



○10-12月期の景況DI実績は、製造業で前期比4.2ポイント上昇、非製造業で同値となった。売上高DI実績は、製造業で前期比3.4ポイント上昇、非製造業で同▲0.8ポイントとなった。

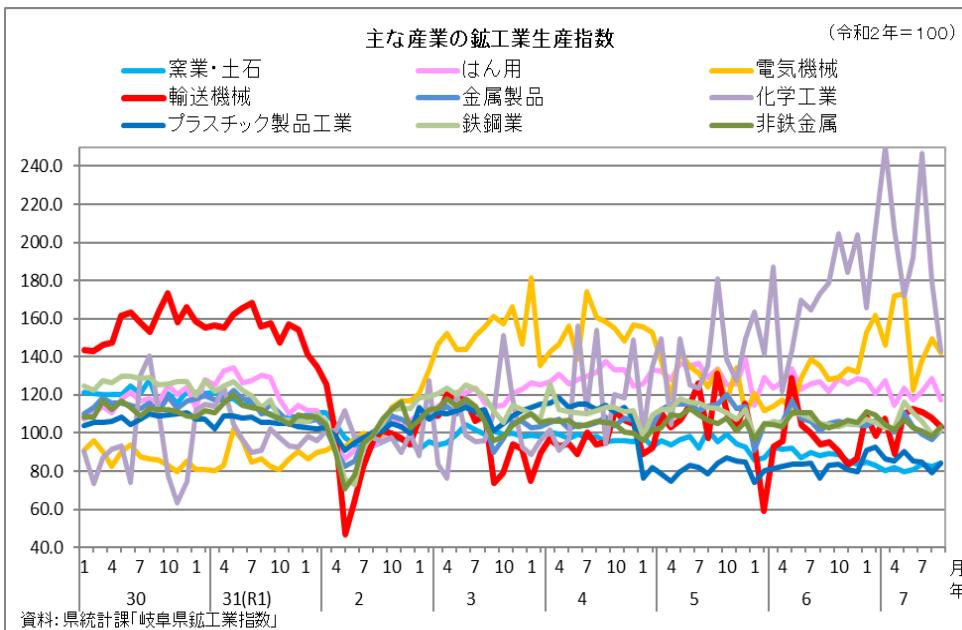
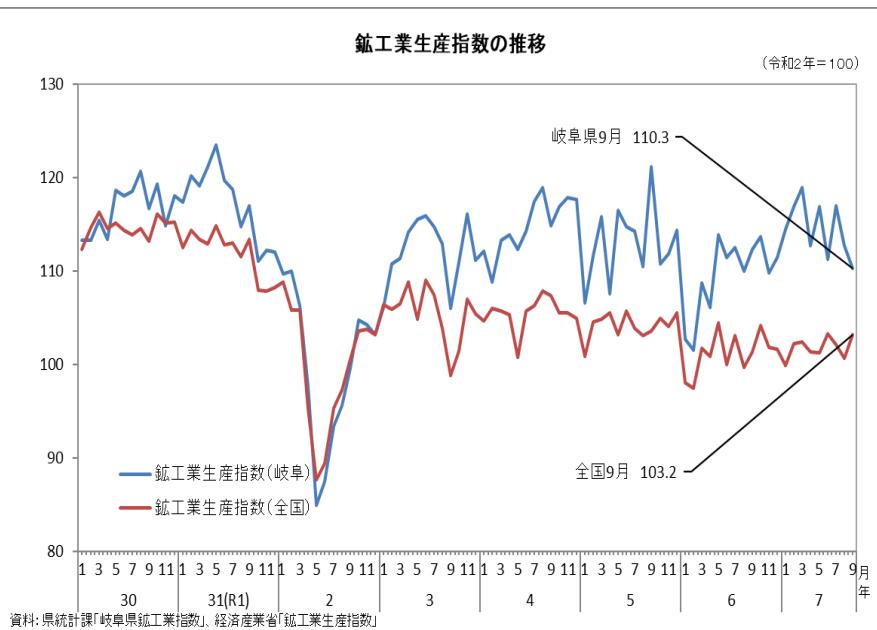


製造業

○9月の県内鉱工業生産指数(季節調整済)は、110.3で前月比▲2.1%と2ヶ月連続で前年同月を下回った。

○9月の全国の鉱工業生産指数(季節調整済)は、103.2で前月比2.6%と3ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

○9月の主な産業の指数は、プラスチック製品工業で前月比6.4%、金属製品で同5.6%、非鉄金属で同5.0%、鉄鋼業で同2.1%、窯業・土石で同1.9%上昇となった。一方で、化学工業で同▲20.1%、はん用で同▲8.6%、電気機械で同▲4.8%、輸送機械で同▲4.7%となった。



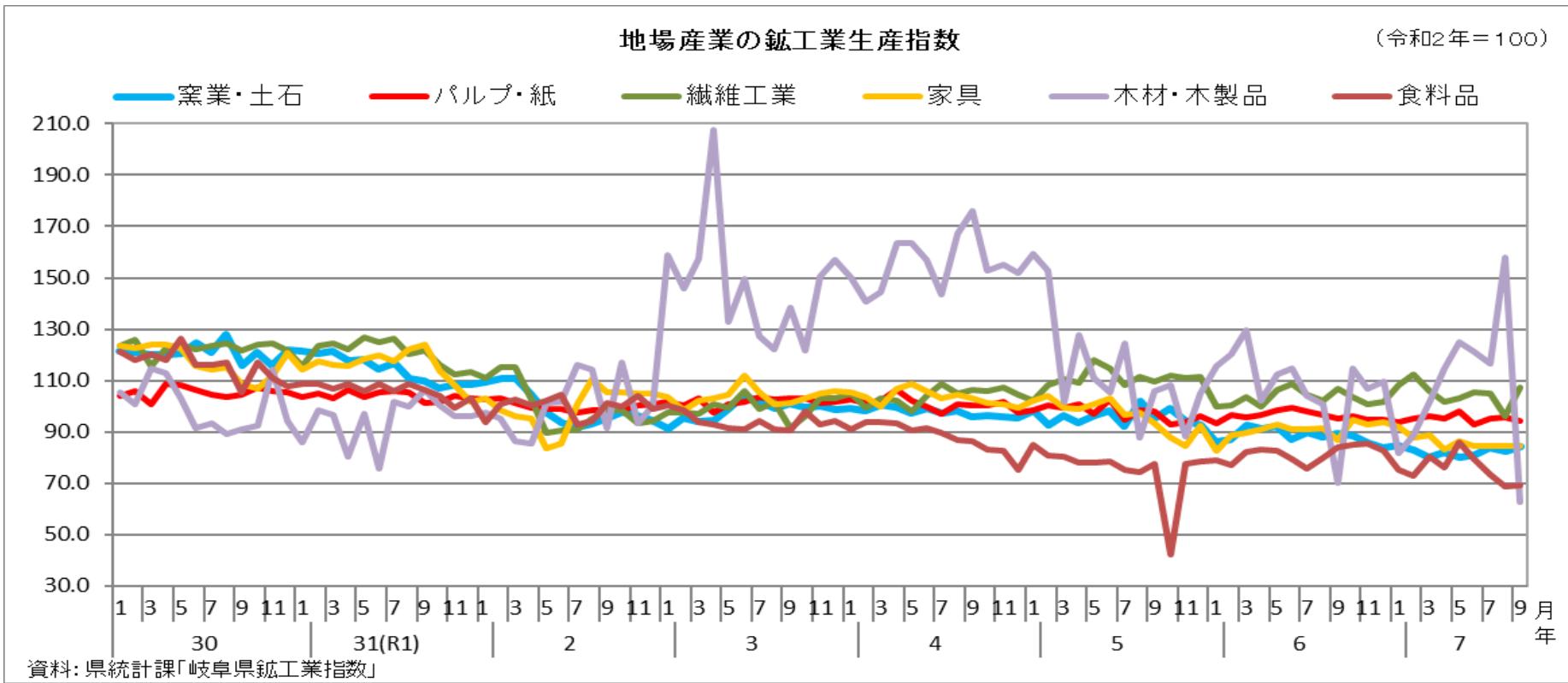
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 大手自動車メーカーは好調だが、あまり実感はなく前年同月比で同水準が続いている。(輸送用機械器具)
- ◆ 受注出荷、在庫状況も計画通り。しかし、今年度末で大手自動車メーカーの人気車種の部品生産が打ち切りとなり、新しいモデルの受注もないため、今後の減収減益は避けられない。(輸送用機械器具)
- ◆ 業界内でサプライヤー集約化の動きがあり、転注需要により既存品を増産した。(非鉄金属)
- ◆ 電気自動車向け製品計画は自動車メーカーの生産拠点の再検討等のため、生産計画の変動が多い。(プラスチック製品)

製造業－2

○9月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業で前月比11.9%、窯業・土石で同1.9%、食料品で0.6%上昇した一方で、木材・木製品で同▲60.4%、パルプ・紙で同▲1.0%、家具で同▲0.1%となつた。



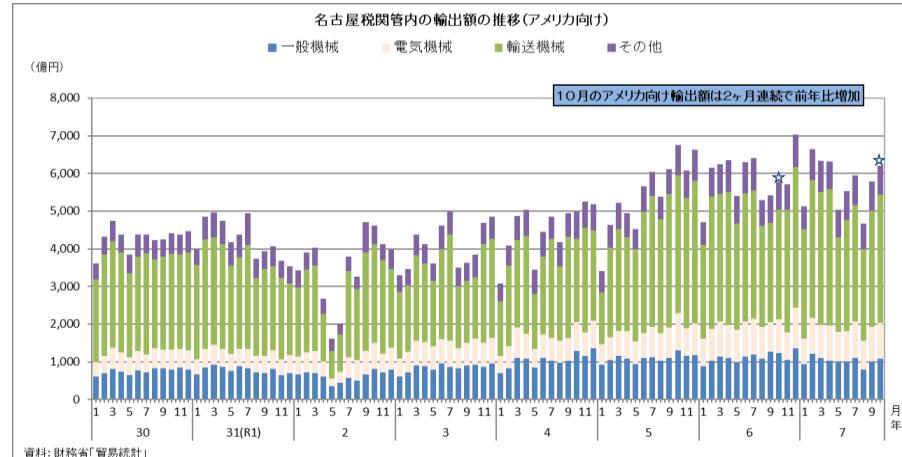
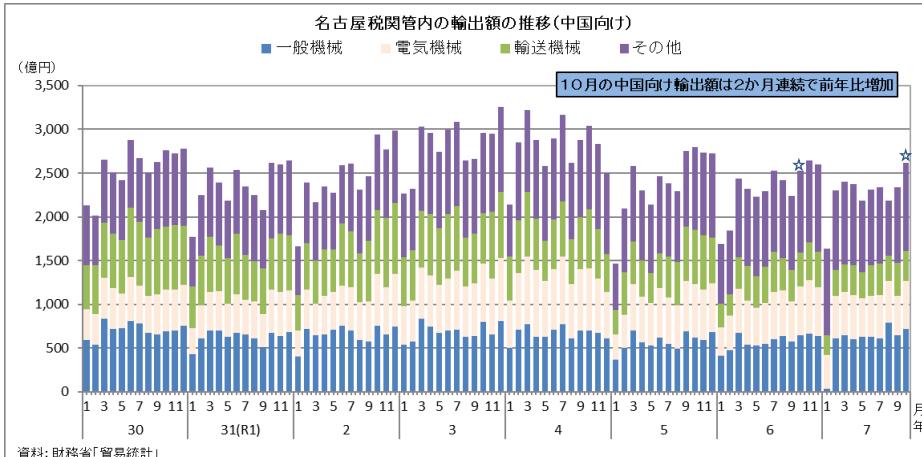
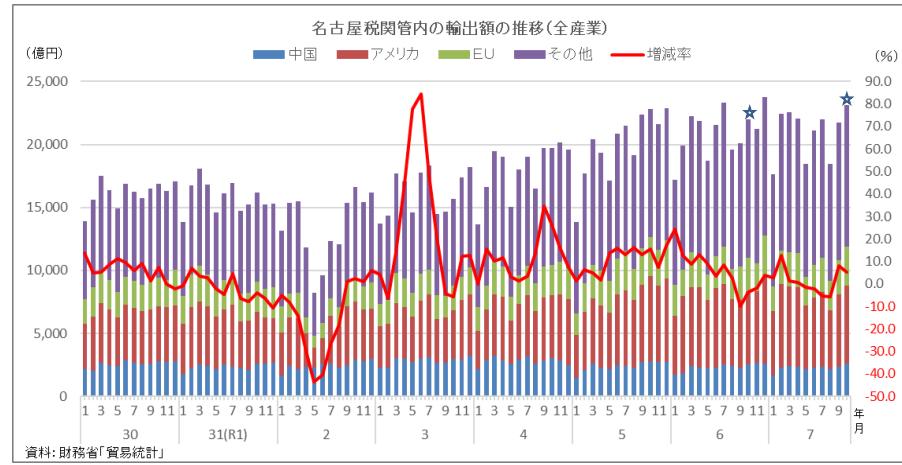
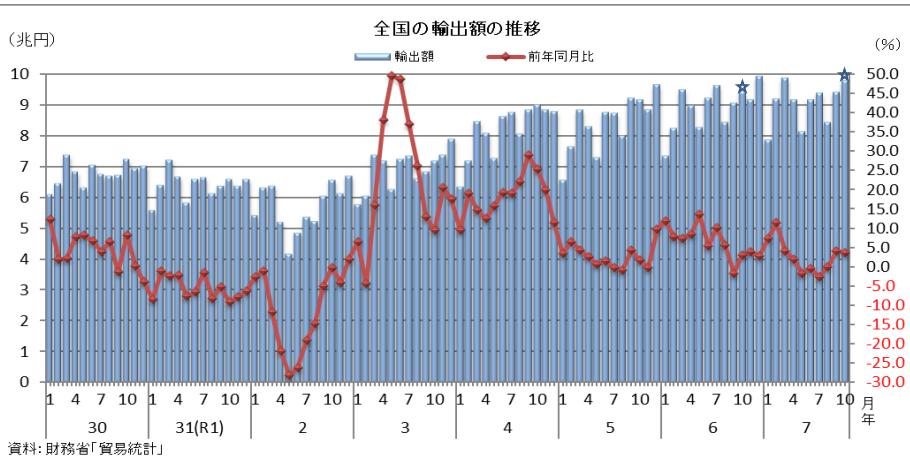
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ インバウンド需要の高まりと、多少高額でも良質な商品を購入する人が増えたため、売上は一昨年度から好調であり、受注を受けても在庫がない状態が続いている。(刃物)
- ◆ コロナ禍の収束に伴い、飲食店の新規開業が増加し、食器関連の受注が大幅に増加している。(陶磁器)
- ◆ 売上は昨年と横ばい、今年度3~5%の値上げを実施したが、賃金上昇や原材料の高騰のペースに追いついておらず利益率はあまり改善していない。(木工)

輸出(名古屋税関管内)

- 10月の輸出額(全国)は、9兆7, 662億円で前年同月3. 6%増加となった。
- 10月の輸出額(名古屋税関内)は、2兆3, 127億円で前年同月比5. 2%増加となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比3. 4%増加となった。その内、一般機械で同10. 8%増加した一方で、輸送機械で同▲9. 8%、電気機械で同▲1. 6%となった。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比7. 2%増加となった。その内、輸送機械で同17. 0%、電気機械で同6. 0%増加した一方で、一般機械で同▲12. 0%となった。

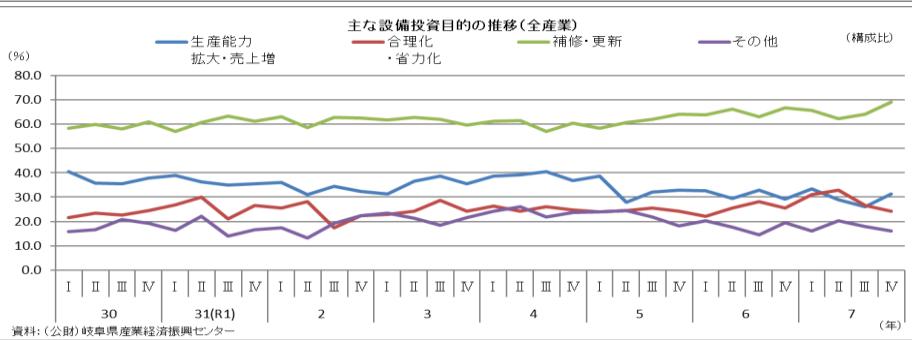


設備投資

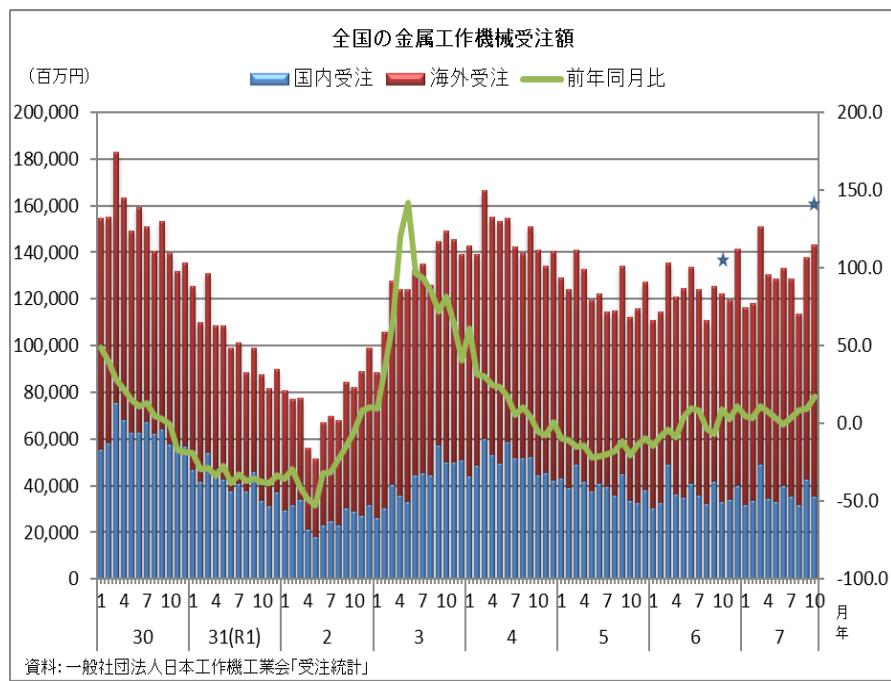
- 10~12月期の設備投資実施実績は前期比1.5ポイント、設備投資意欲DI見通しは同0.7ポイント上昇となった。設備投資実施実績の目的別では「生産能力拡大・売上増」で前期比5.3ポイント、「補修・更新」で同5.0ポイント上昇となった一方で、「合理化・省力化」で前期比▲2.4ポイントとなった。
 - 10月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比16.9%増加と4ヶ月連続で前年を上回った。内訳は海外受注は同20.7%増加と13ヶ月連続で前年同月を上回り、国内受注は同6.7%増加と2ヶ月連続で前年同月を上回った。



資料:(公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」



資料:(公財)岐阜県産業経済振興センター



資料：一般社団法人日本工作機工業会「支社統計」

- ◆ 来年度の設備投資について、コロナ期に先送りした各種保守、機材更新に関する改修希望などが多く、グループ全体として協議している。(輸送用機械)
 - ◆ 自動検査機や省人化のための設備を導入予定。(輸送用機械)
 - ◆ 以前使用していた機械の老朽化に伴い、合理化のため、木材加工の機械を更新。(木工)

為替・原油・原材料価格の動向に伴う経済変動の影響について

- ◆ ガソリン税等が軽減される方針となったことで、固定費が下がることが予想される。(輸送用機械器具)
- ◆ 原材料費やエネルギー価格に関しては価格転嫁が出来ている。労務費についても価格転嫁できるように営業を強化している。(非鉄金属)
- ◆ 原材料費は高騰し続けているが、デザインをマイナーチェンジし、価格を少し引き上げることで価格転嫁を進めている。(刃物)

米国による関税措置について

- ◆ 製品が海外で作られて、それを日本に持ってこられると影響が出るかもしれないが、現在は影響がない。(輸送用機械器具)
- ◆ 全体的に受注状況が良くないと感じるので、何かしらの影響が出ているのではないかと思うが、直接的に影響を受けていると判断できる具体的な事例はない。(輸送用機械器具)
- ◆ 部品分の関税は申告通り顧客から支払ってもらえる見込み。設備、治具等については、汎用設備との判断から顧客が難色を示しているが、粘り強く交渉していく。(輸送用機械器具)

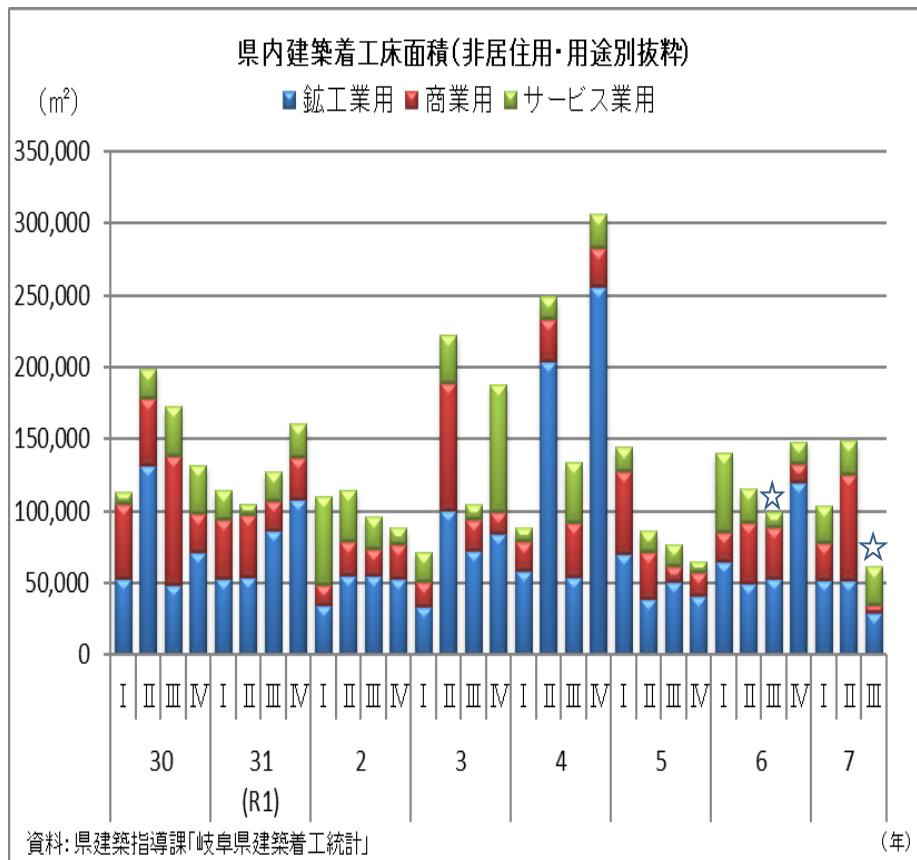
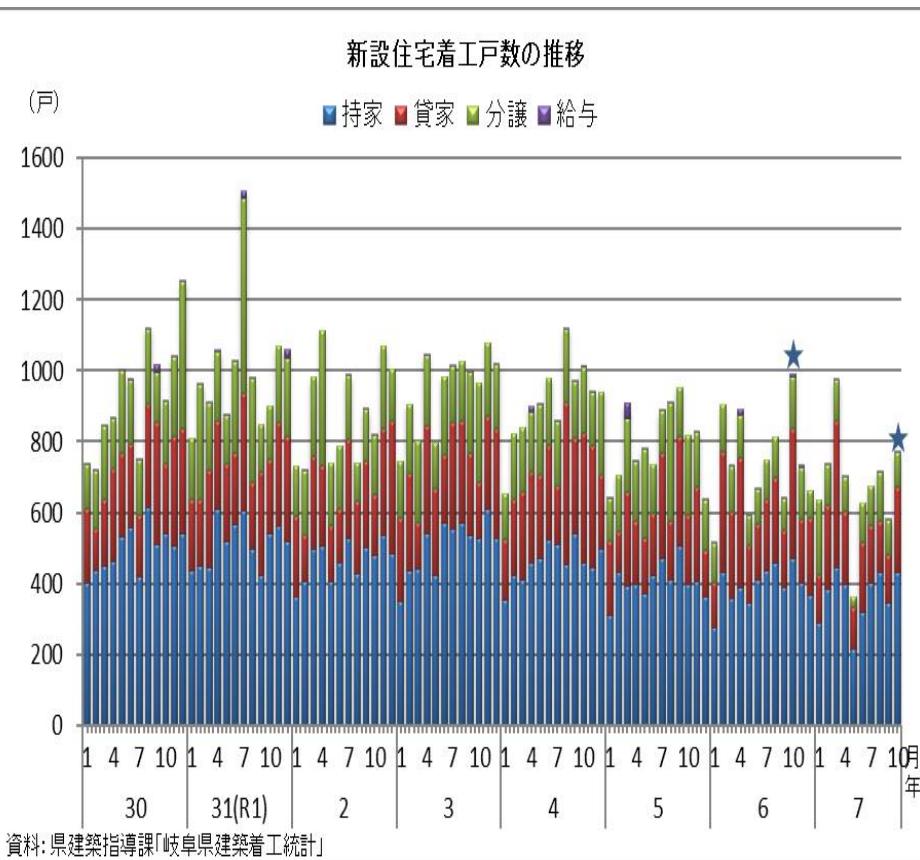
日中関係の悪化による影響について

- ◆ 中国にある子会社について、現時点で出向者の生活やビジネスへの影響はない。(輸送用機械器具)
- ◆ 現在のところ国際情勢や為替相場の影響なく事業を実施しているが、主な取引先が中国との取引が多いので、今後影響が出ることを危惧している。(輸送用機械器具)
- ◆ 関係悪化が長期にわたると、国内回帰や内製化の動きに繋がり、その動きが取引先に及ぶことを心配している。(生産用機械器具)
- ◆ 観光客の減少は間違いないあるが、依存度はそれほどないので影響は限定的である。(高山市商店街)

住宅・建築投資

- 10月の住宅着工戸数は、前年同月比▲22.3%と7ヶ月連続で減少。
- 貸家で前年同月比▲34.1%、分譲で同▲33.3%、持家で同▲8.5%となった。

- 7—9月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比143.7%上昇、商業用で同▲4.9%、鉱工業用で同▲44.6%となり、全体で同▲38.7%となった。

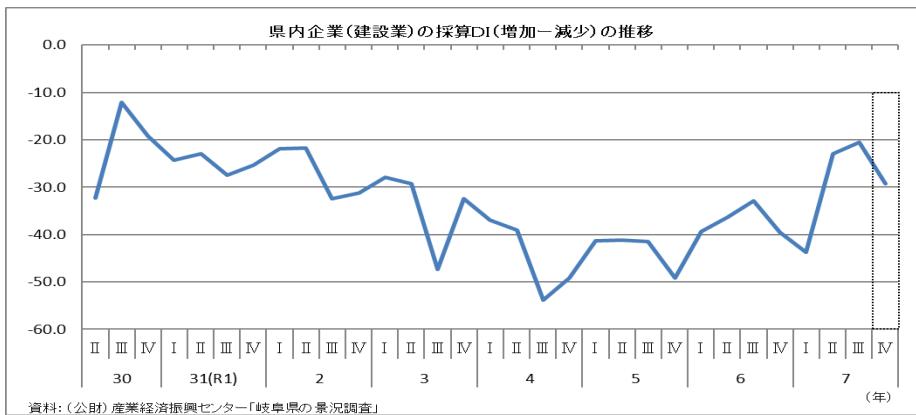
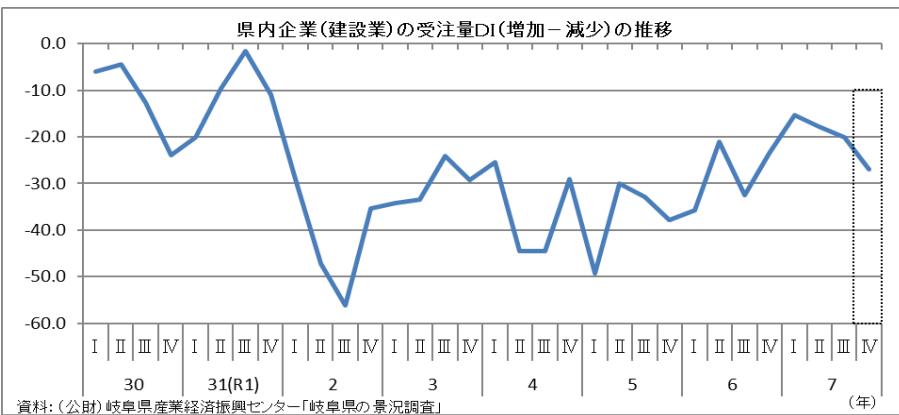
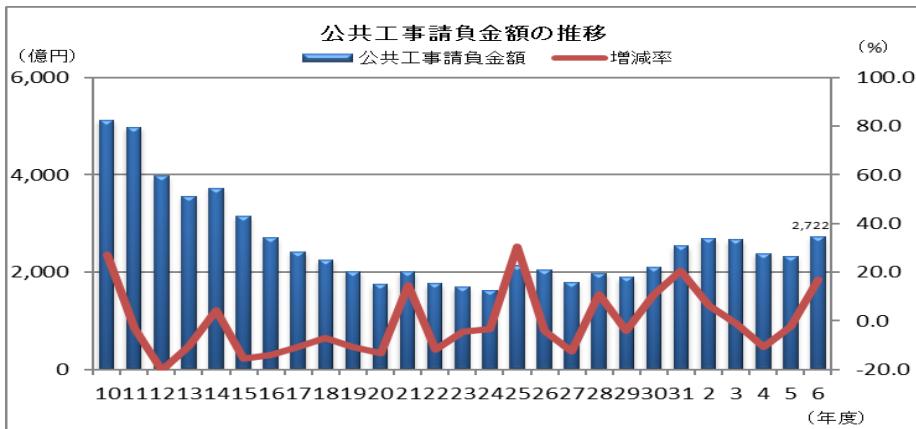
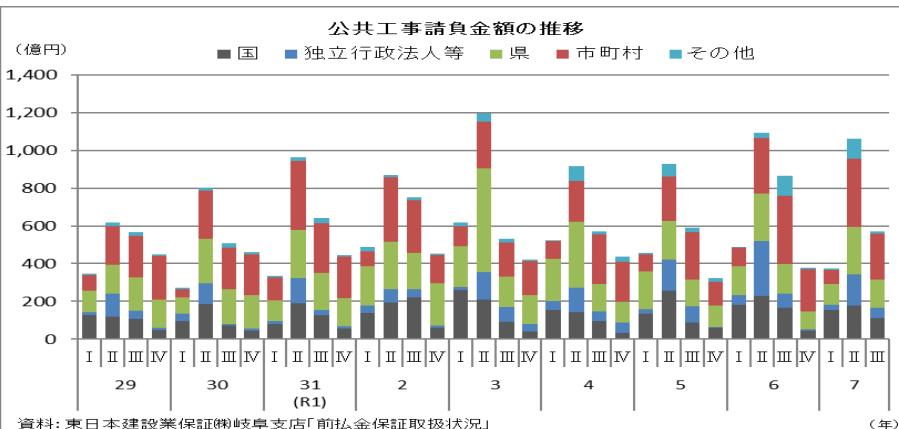


現場の動き

- ◆ 原木の入荷は減少しており、原木不足になりつつあるが、需要は落ち着いている。(卸売)
- ◆ 物件数が少なく、木材の使用料が少ないため売上は減少している。(卸売)
- ◆ 9月以降は申込数が増えているため、12月～1月の契約数は増加する見込み。(住宅)

建設工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比▲32.6%、独立行政法人等で同▲25.0%、県で同▲7.9%となり、全体で同▲32.8%となった。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI実績は前期比▲6.9ポイントとなり、同採算DI実績は同値となった。



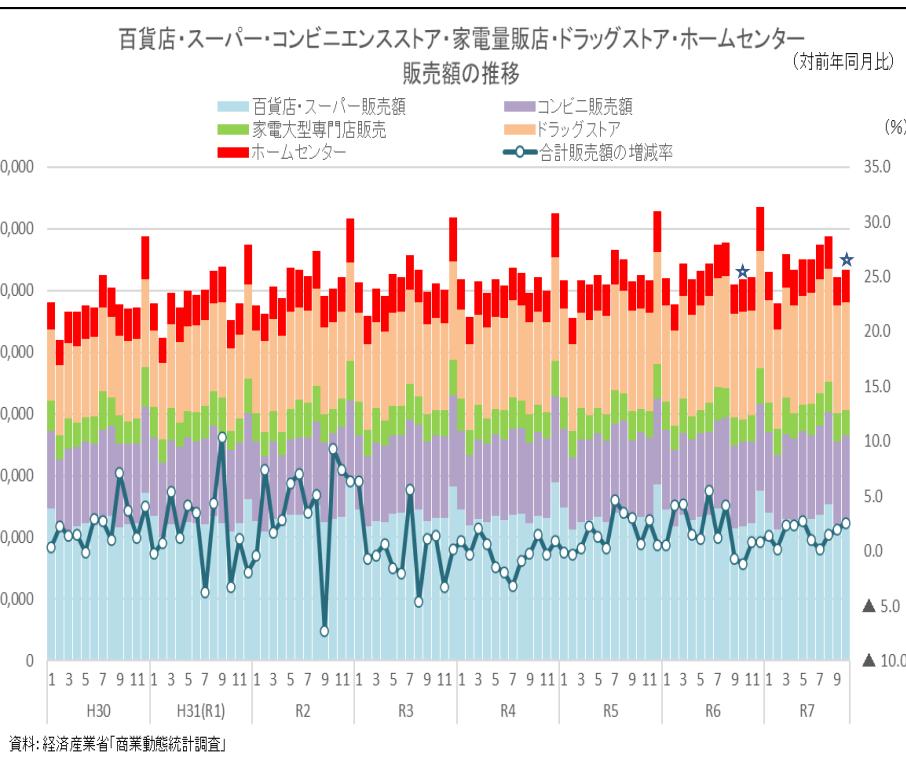
現場の動き

- ◆ 物価上昇が止まらないことに加え、公共工事の減少または遅延が影響し、売上は前年比の80%程度に減少。
- ◆ 民間工事では単価スライドが認められることがほとんどないため、物価上昇に対応できない。

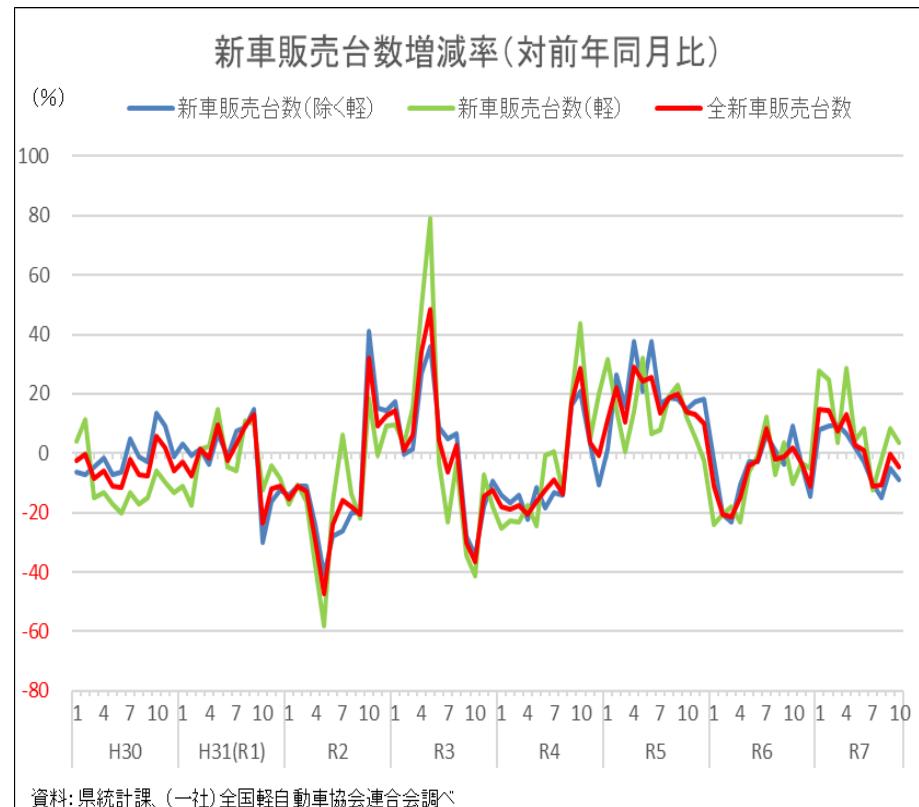
(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○10月は家電大型専門店で前年同月比
11.5%、百貨店・スーパーで同5.0%、百貨
店・スーパーで同5.0%上昇した一方で、ホー
ムセンターで同▲1.4%、コンビニで同
▲0.7%。全体では12ヶ月連続となる2.6%
の上昇となった。



○10月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比
▲8.8%と5ヶ月連続で前年同月を下回った。
軽自動車は同3.5%増加と2ヶ月連続で前年
同月を上回った。合算では同▲4.8%と、前年
同月を4ヶ月連続で下回った。



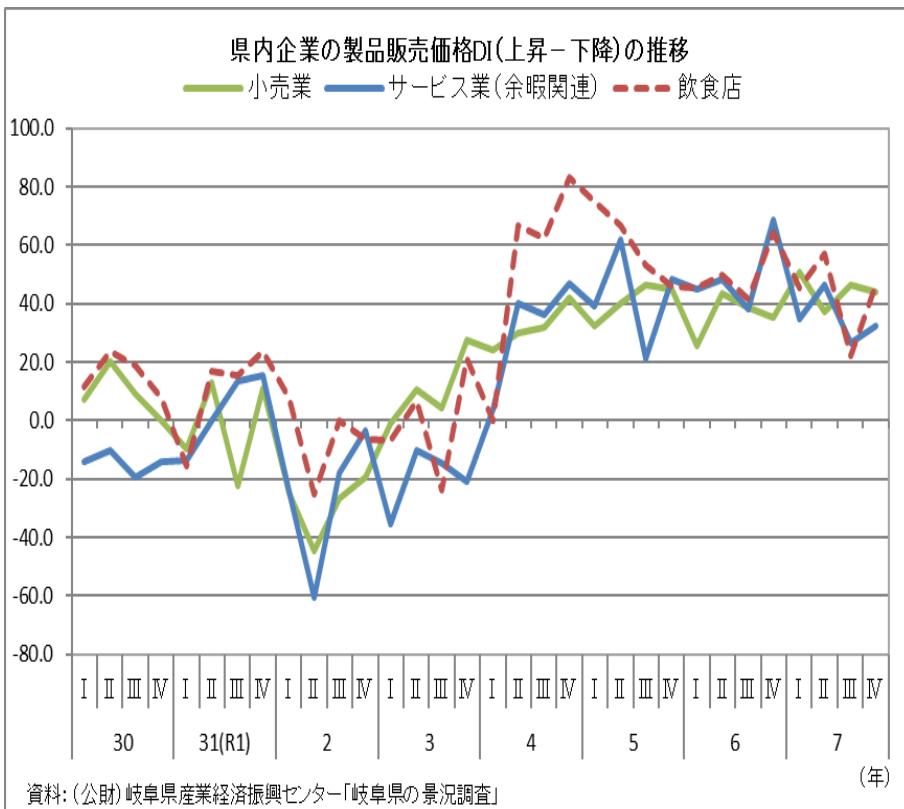
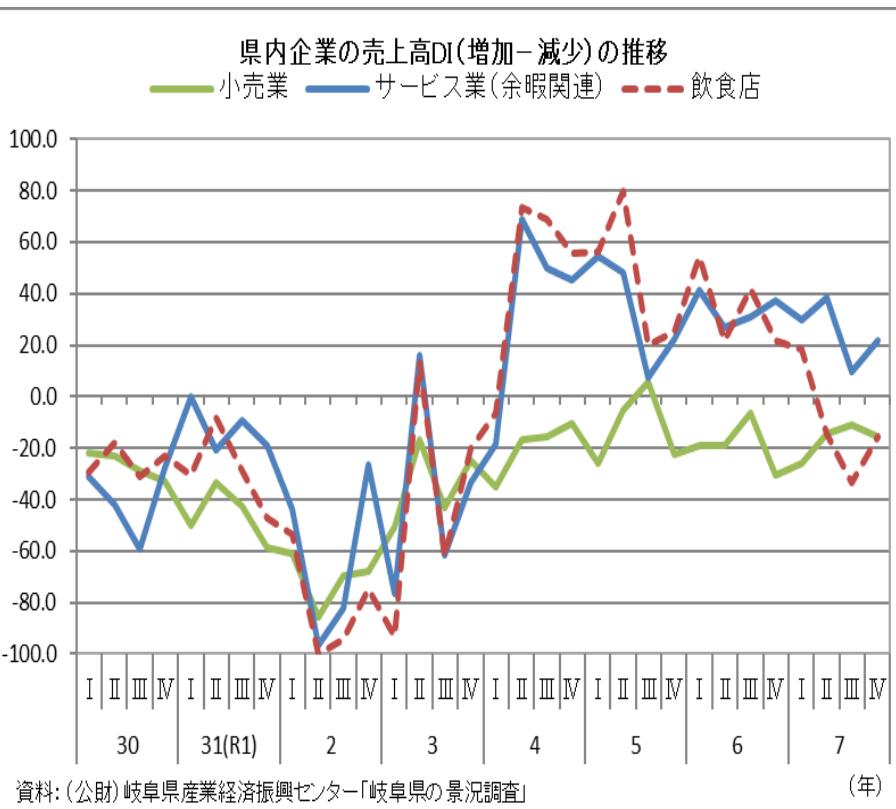
現場の動き

- ◆ シネコンの好調継続に加えて、気温低下に伴い重衣料や季節家電等の季節商材の売上が伸長。
- ◆ 各販促施策やイベントの連続実施も寄与し来場・売上共に増大。

(以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

- 10-12月期の売上高DI実績は、飲食店で前期比18.0%、サービス業(余暇関連)で同11.8ポイント上昇した一方で、小売業で同▲4.3ポイントとなった。
- 同じく販売価格DI実績は、飲食店で前期比同値となつた一方で、小売業で同▲10.9ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲7.2ポイントとなつた。



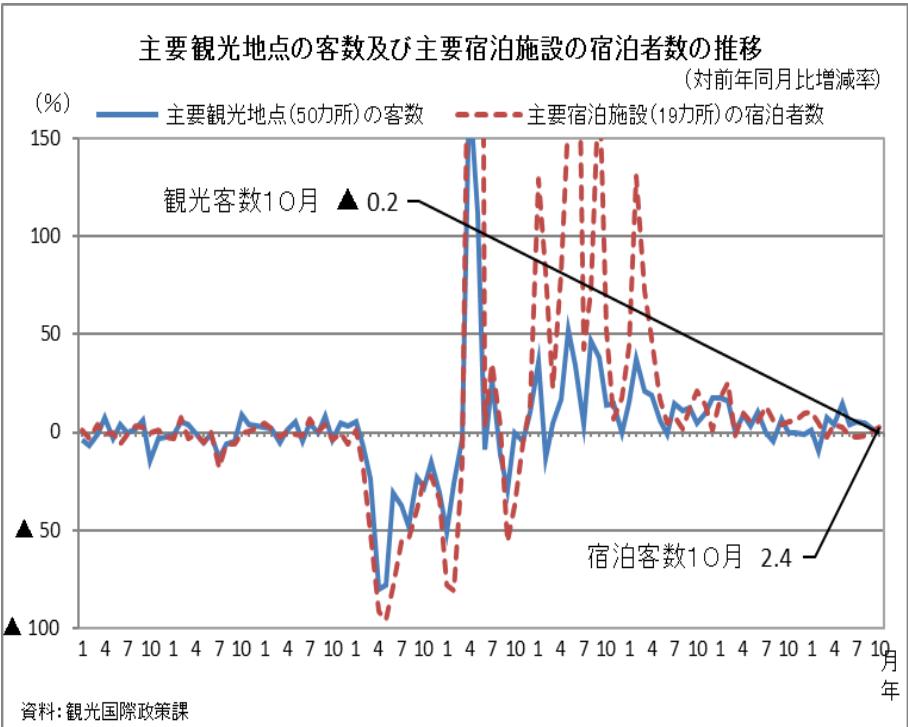
現場の動き

- ◆ 価格を上げた商品が大きく売上を落としているので、11月より大きく値上げがあつた原材料もあるが、価格の転嫁は控えている。(大垣市商店街)
- ◆ 日中関係の悪化について、観光客の減少は間違いなくあるが、依存度はそれほどないので影響は限定的である。(高山市商店街)

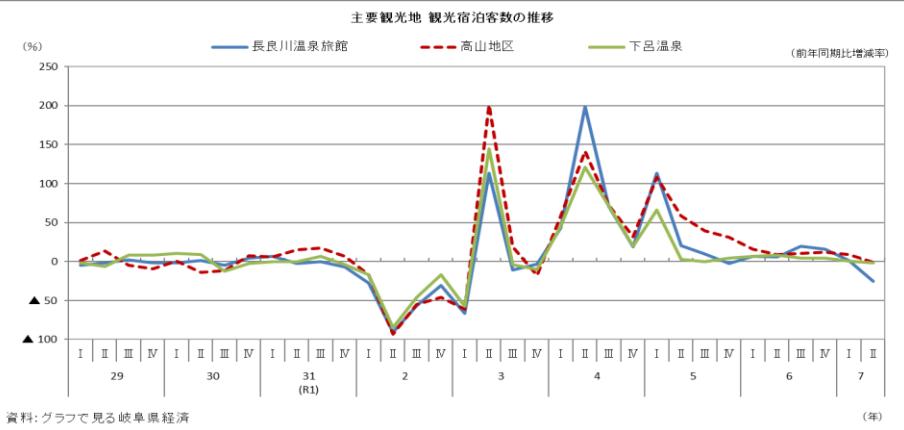
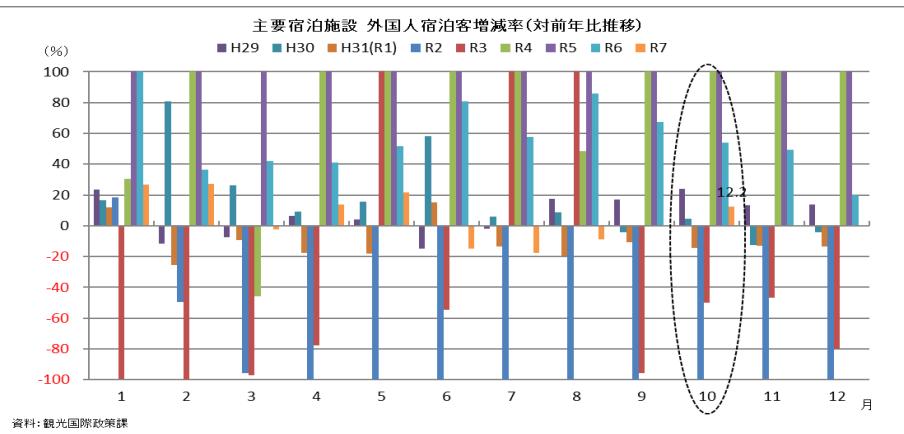
観光

○主要観光地における10月の観光客数は、前年同月比0.2%減、コロナ前の令和元年同月比では、5.1%減となっている。

○主要宿泊施設における10月の宿泊者数は、前年同月比2.4%増、令和元年同月比では、0.6%増となっている。



○10月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、コロナ前の令和元年同月比では、80.3%増となっている。

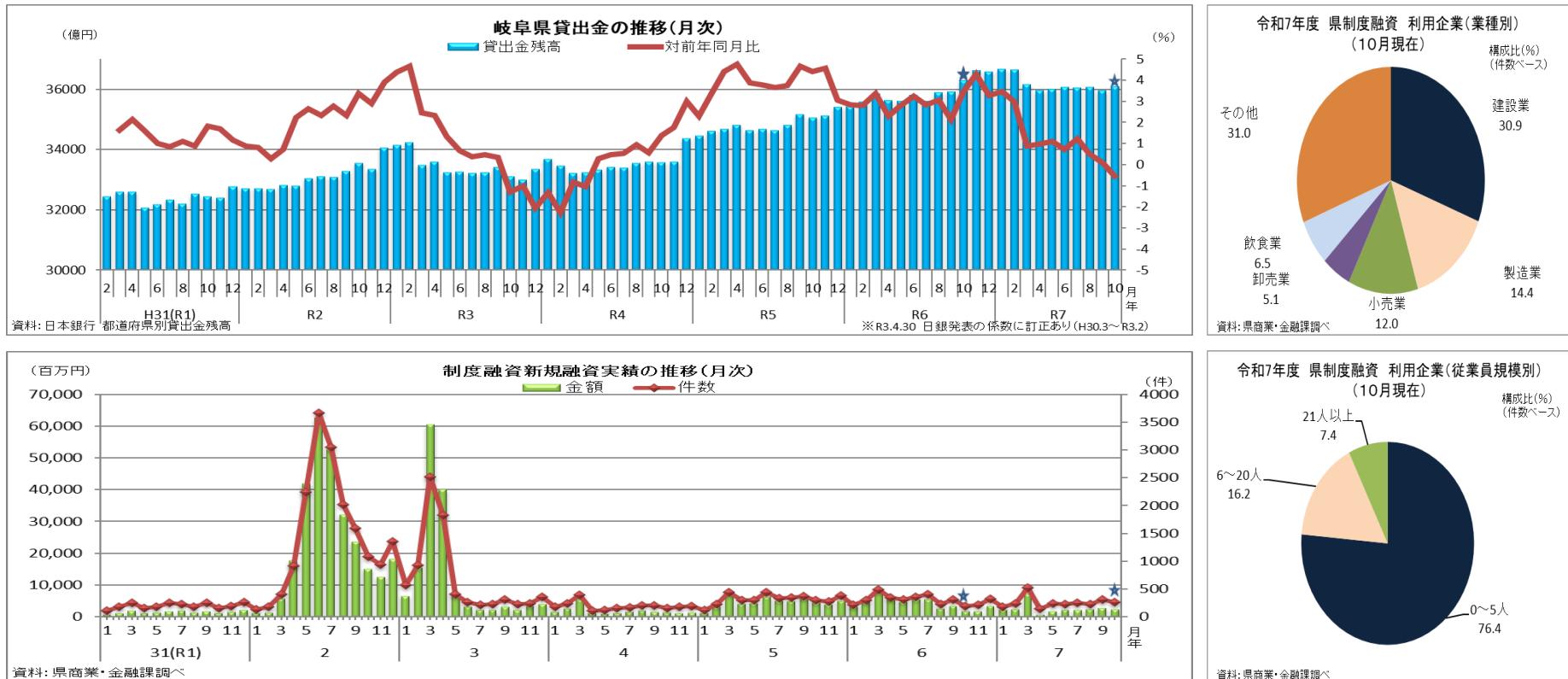


現場の動き

- ◆ねんりんピックの開催により、例年より団体客が増加。(岐阜市、大垣市の宿泊施設)
- ◆インターネット予約が増加。(郡上市、高山市、下呂市の宿泊施設)
- ◆人材不足が深刻化しており、日本人の人材確保が困難。(岐阜市、郡上市、高山市の宿泊施設)
- ◆原材料等の物価や仕入れ単価の高騰が続いている。(岐阜市、高山市の宿泊施設)

資金繰り

- 10月の岐阜県貸出金残高は、3兆6, 109億円で前年同月比▲0. 5%と42ヶ月ぶりに減少。
- 10月の制度融資実績は、金額が2, 501百万円で前年同月比39. 5%増加と15ヶ月ぶりに増加、件数は262件で同35. 8%増加となった。
- 制度融資利用企業の従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の76. 4%を占めている。



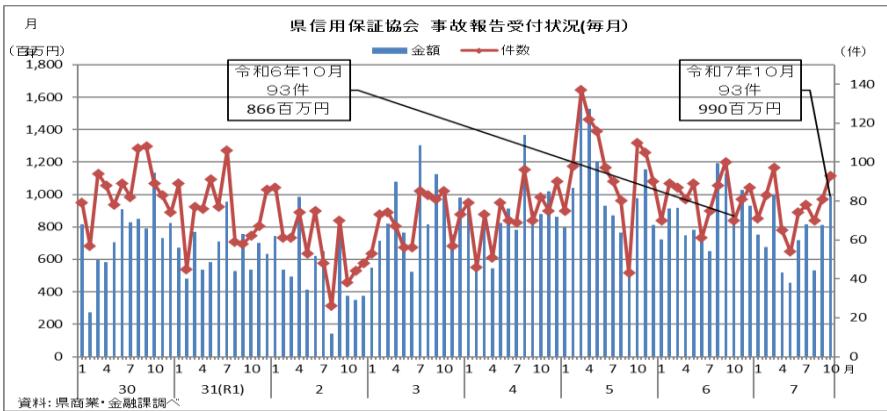
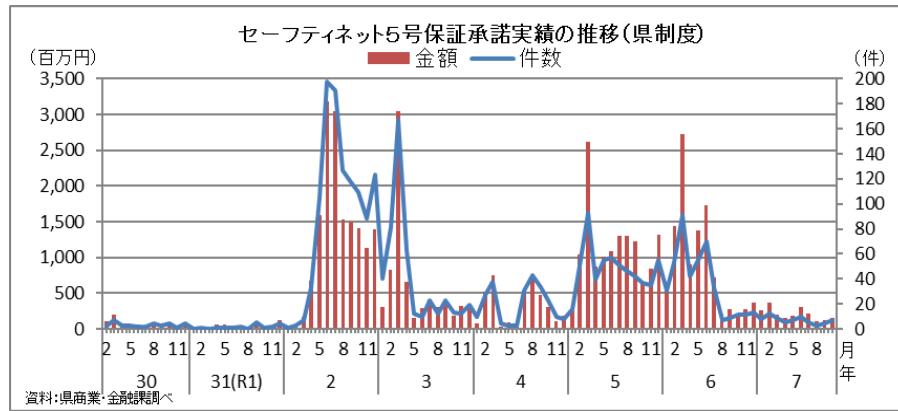
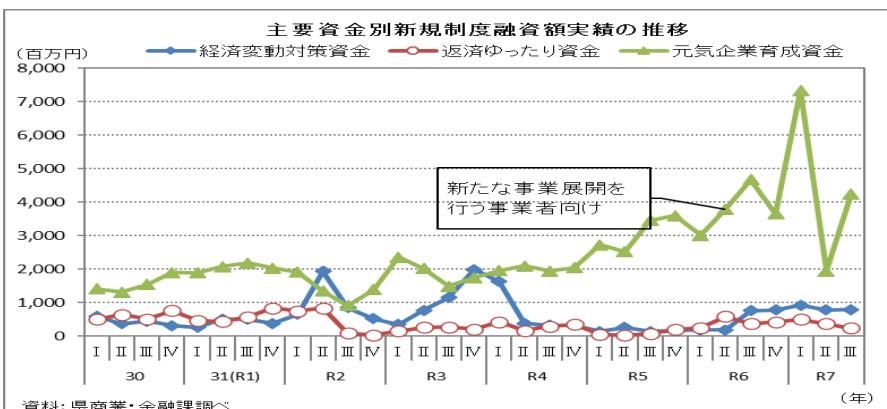
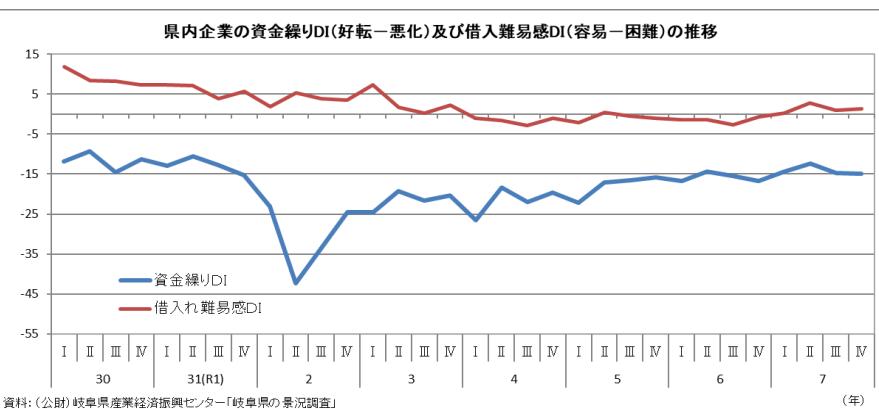
現場の動き

- ◆ 資金需要は賃上げによる人件費の高騰、物価高等の影響を受け、業種問わず運転資金のニーズが高い。
- ◆ 利上げ局面である意識は事業者にも浸透しているため、金利を気にしての資金需要の増減はない。
- ◆ 引き続き政策金利の動向を注視していく。

(以上、金融機関)

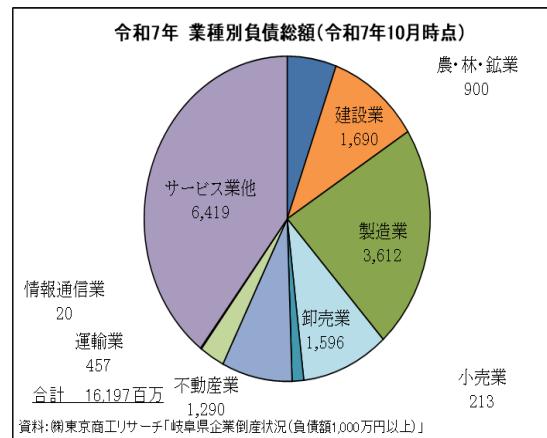
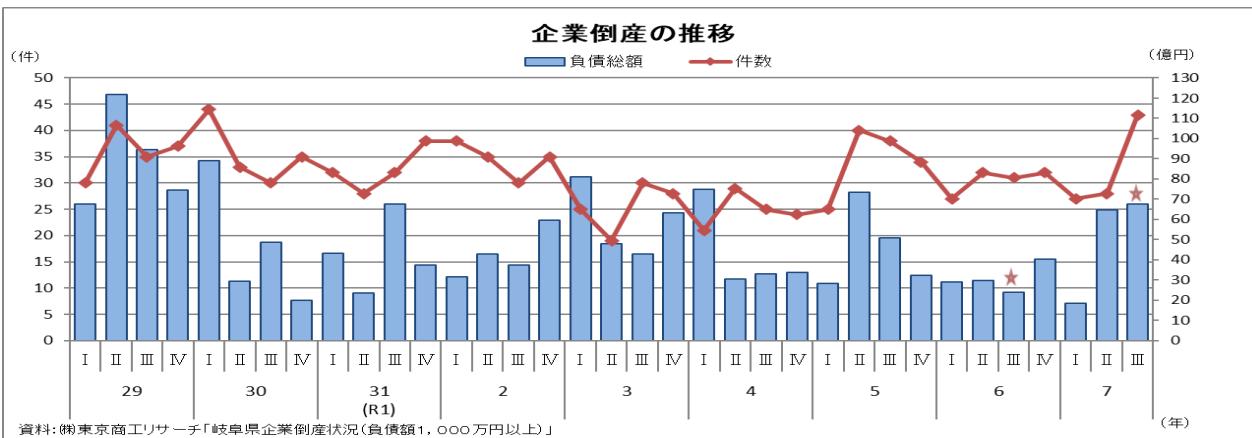
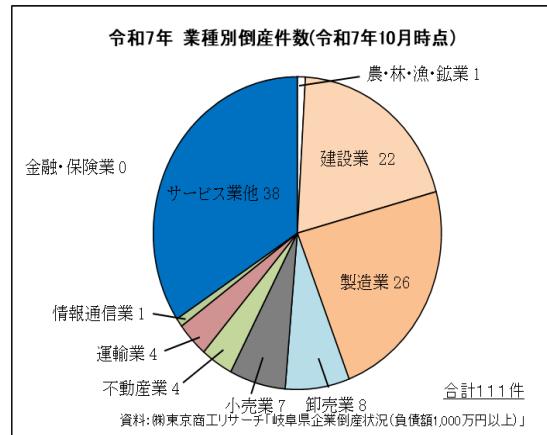
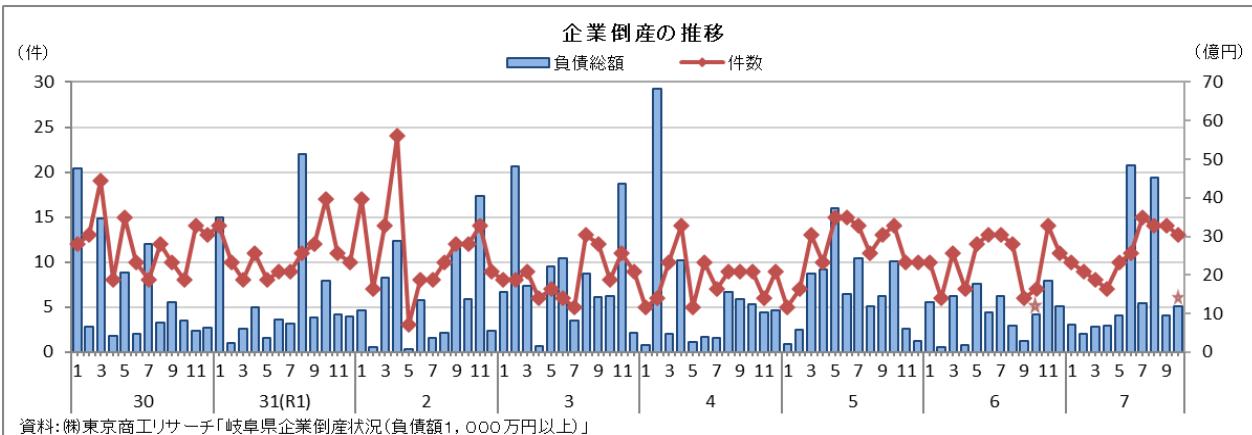
資金繰りー2

- 10-12月期の資金繰りDI実績は▲14.9で、前期比▲0.2ポイントとなった。同借入難易感DI実績は1.4で、前期比0.4ポイント上昇となった。
- 7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比4.8%増加した。一方、返済ゆったり資金では同▲35.7%、元気企業育成資金で同▲8.9%と2期連続で減少となった。
- 10月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が7件で前年同月比▲36.4%、金額150百万円で同▲26.8%となった。
- 10月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は93件で前年同月32.9%増加、金額は990百万円で同14.3%増加となった。



倒 産

- 10月単月の倒産件数は13件、負債総額は前月比239百万円増加の1,185百万円となった。
 - 令和6年10月は負債総額1億円以上の倒産が5件発生したのに対して、令和7年10月は同倒産4件となった。負債総額は前年同月比▲34百万円となった。



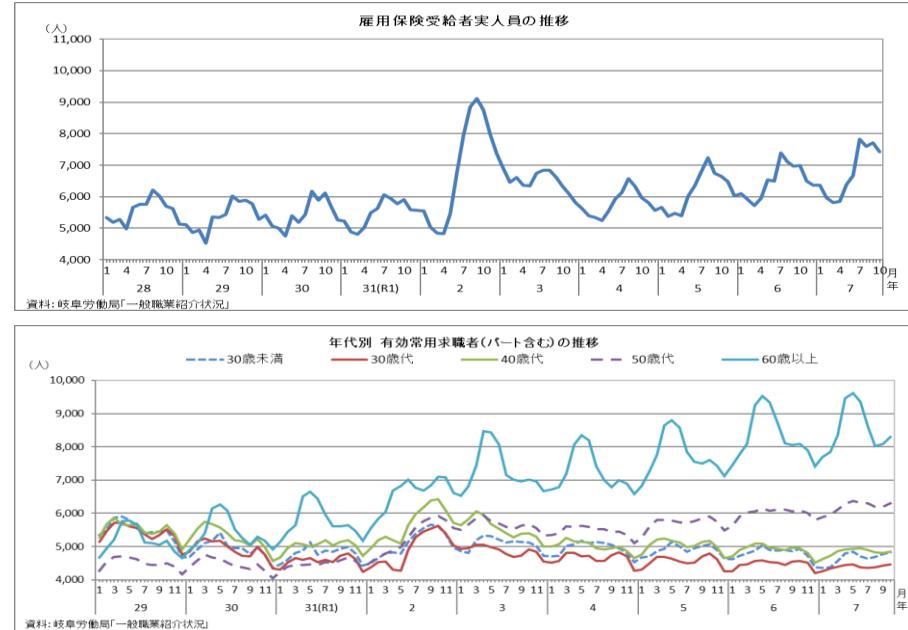
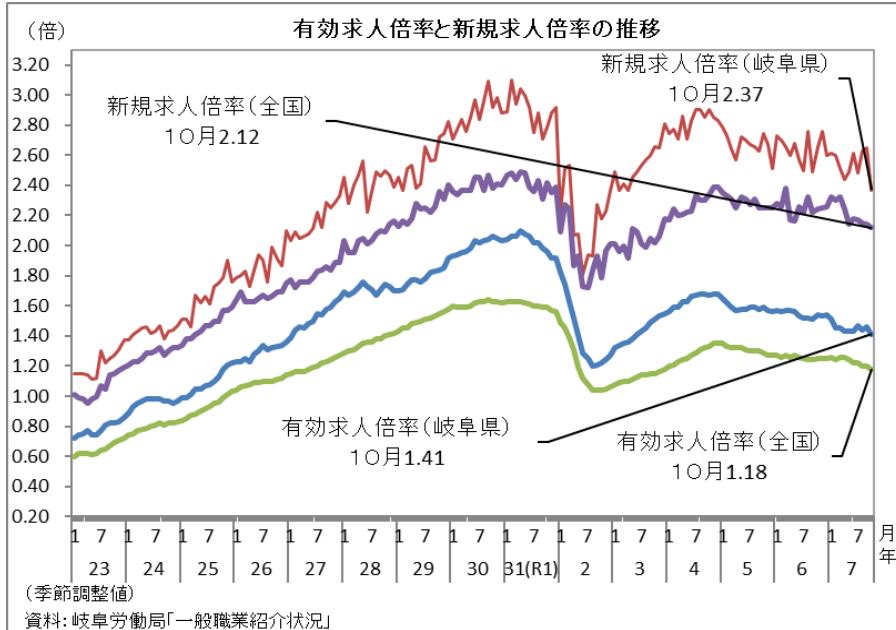
専門機関の分析(東京商エリサーチ・12月16日時点)

- ◆ 経済情勢としては、原材料の価格高騰、物価上昇による個人消費への影響、米国の関税政策による景気の下振れリスクや中国との関係悪化など新しいリスクがあり、依然として先行き不安定な状況が続いている。最低賃金が全国平均1,121円に引き上げられ、物価高で収益確保が厳しい中で体力の乏しい中小・零細企業の負担はさらに重くのしかかる。体力以上の賃上げは資金繰り悪化に拍車をかけるが、賃上げをしなければ人手不足を解消できず、業績改善が進まない企業は負のスパイラルに陥りかねない。

雇用

- 10月の有効求人倍率は1.41倍と、前月比▲0.05ポイントとなった。
- 10月の新規求人倍率は2.37倍と、前月比▲0.28ポイントとなった。

- 10月の雇用保険受給者人員は、前月比▲3.6%となった。
- 有効常用求職者は、50歳代では32ヶ月連続で上昇、60歳代では2ヶ月連続で上昇した。



現場の動き

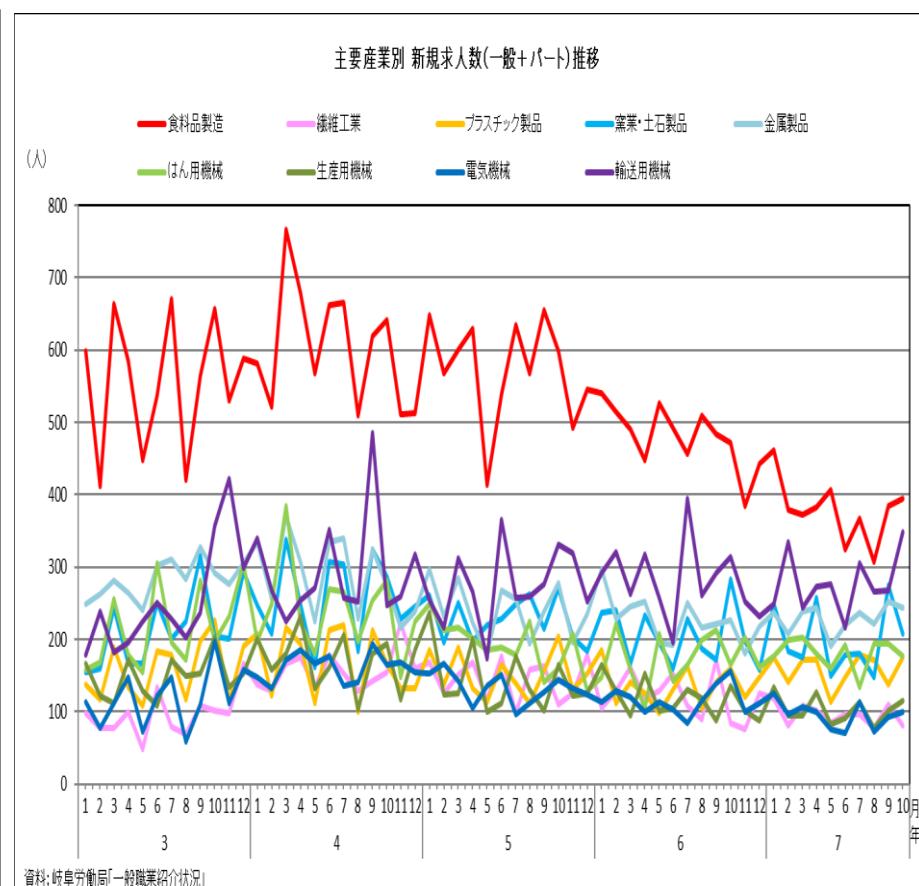
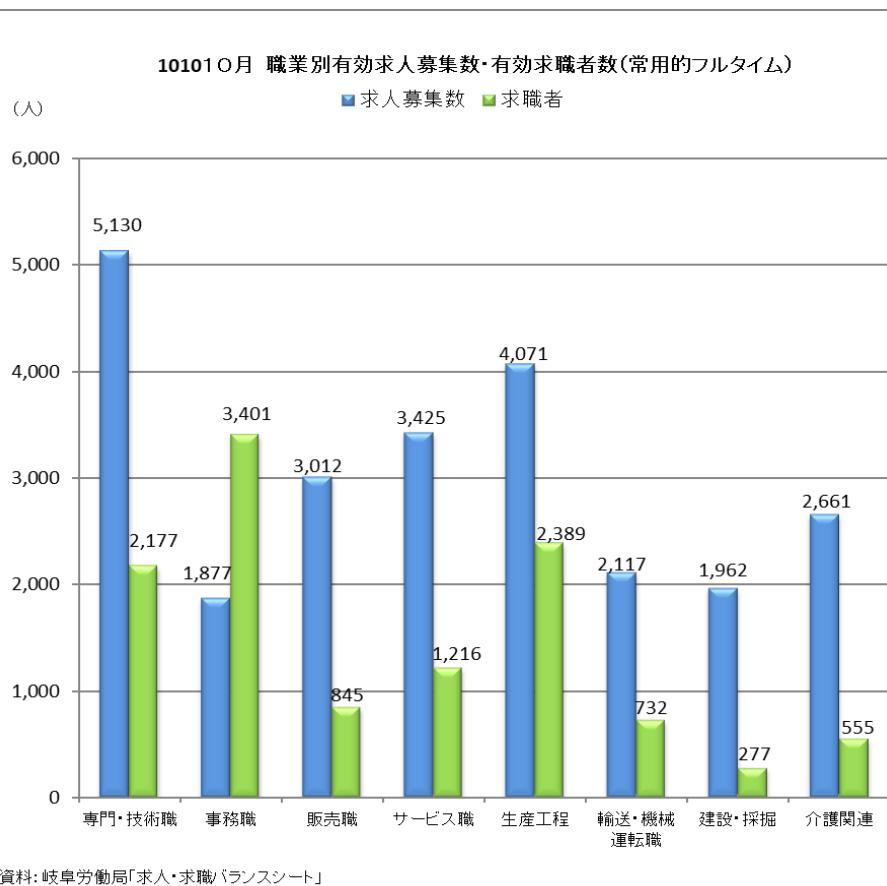
- ◆ 労務管理が昔に比べてしっかりしてきたと感じており、不要な残業を行わない風潮が社内でも出来上がりつつある。(輸送用機械)
- ◆ 昨年度より新規採用も確保できているが、オペレーター業務を行える男性社員を確保したいため、今後も中途採用を含め取り組んでいく。(輸送用機械)
- ◆ 一時的な清算作業増加のため派遣社員を10名ほど増員したが、従来の派遣料金では応募が無く、8%程度の値上げが必要であった。(輸送用機械)
- ◆ 最低賃金の引き上げは加工代金の増加に繋がるため、より経営が苦しくなる。(繊維・アパレル)
- ◆ 賃金引き上げのペースが早く、上昇ペースにまだまだ業績が追い付いていないので負担になっている。(木工)

雇用(職業別)

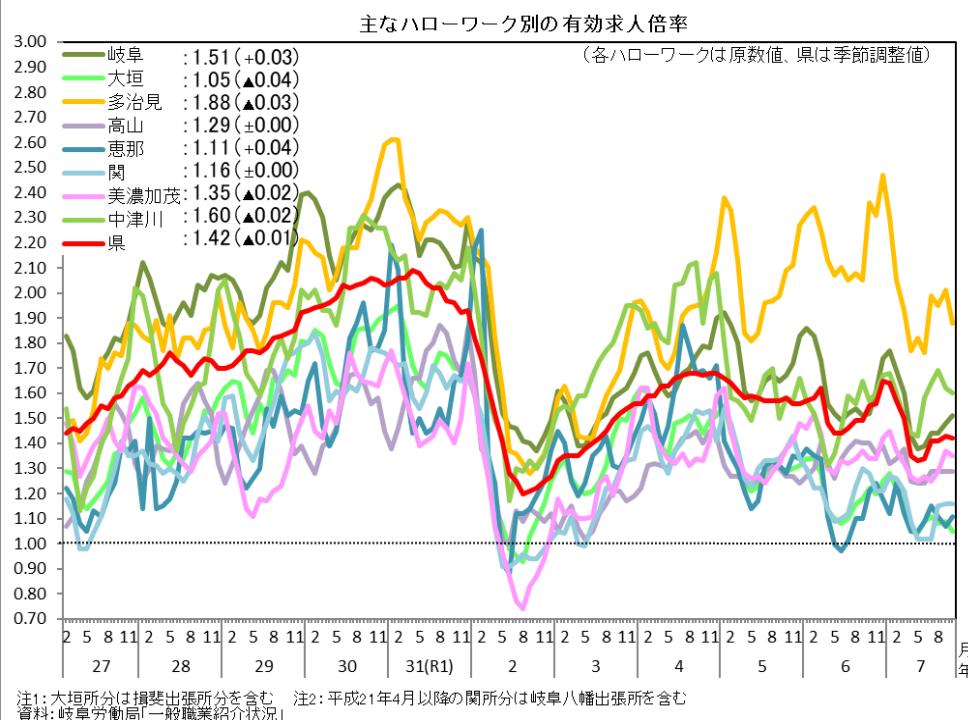
○有効求人倍率は、建設・採掘で7.08倍、介護関連で4.79倍、販売職で3.56倍、サービス職で2.82倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.55倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○10月の主要産業別の新規求人数は、輸送用機械で前年同月比10.8%、プラスチック製品で同9.4%、はん用で同7.3%、金属製品で同7.0%増加した一方で、電気機械で同▲36.3%、窯業・土石で同▲26.5%、食料品製造で同▲16.3%、生産用機械で同▲14.8%、繊維工業で同▲3.6%となった。



雇用(地域別)



○10月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、大垣、多治見、美濃加茂、中津川で前月比減少となった。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数增加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

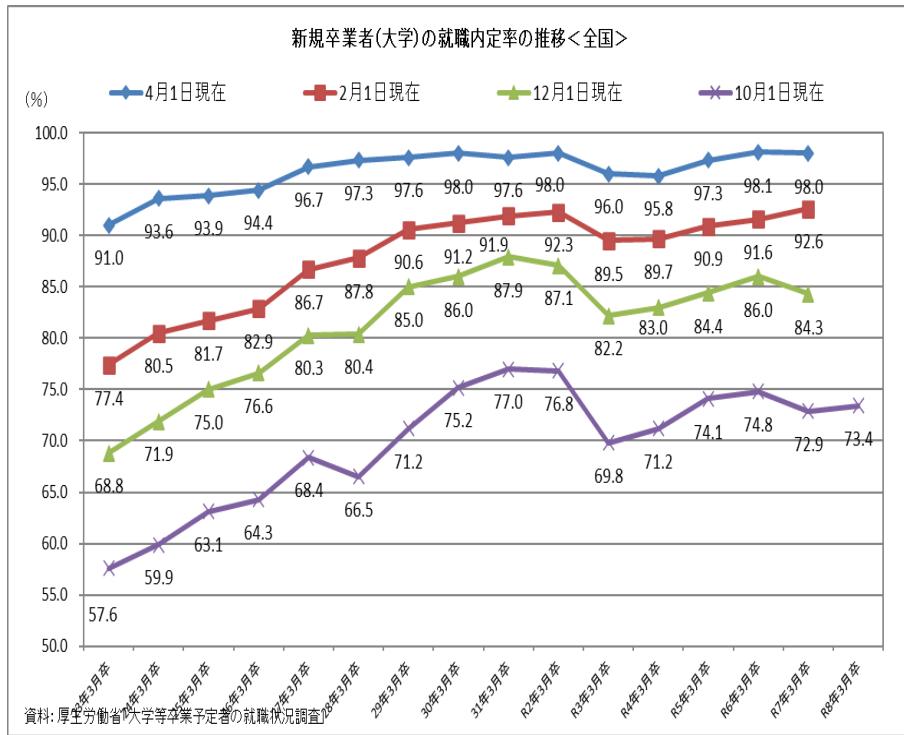
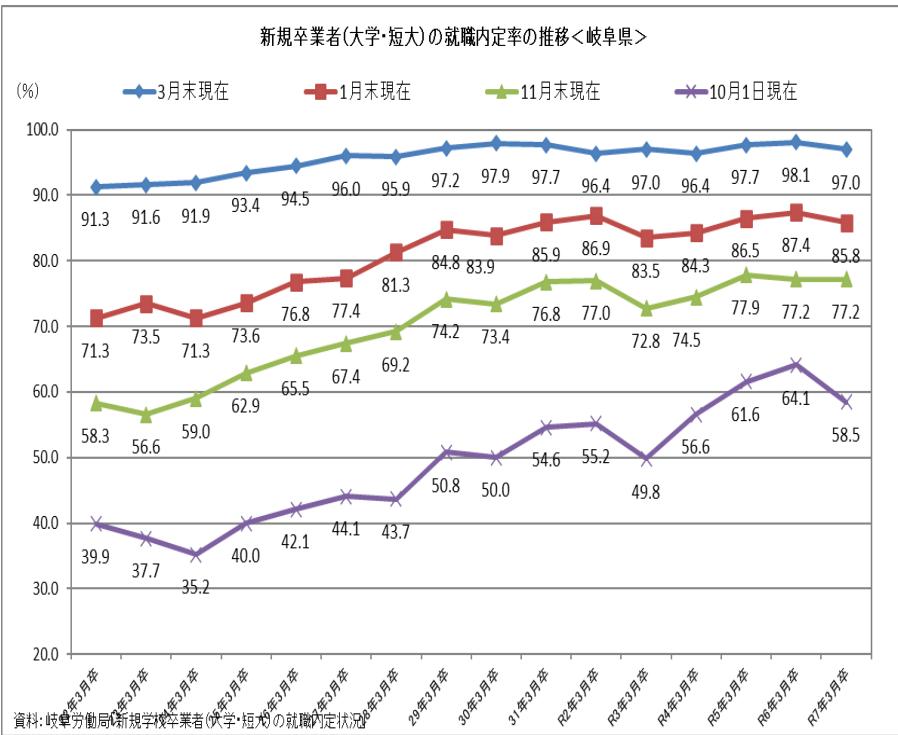
- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子>※前月比

- ◆恵那で混雑している、多治見でやや混雑している、高山、関で同じくらい、岐阜、美濃加茂、中津川でやや空いている、大垣で空いている状況。

雇用(大学・短大新卒者の就職)

- 岐阜県の令和7年3月末現在の大学・短大卒業者(令和7年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ▲1.1ポイントとなった。
- 全国の令和7年10月1日現在の大学卒業者(令和8年3月卒業)内定率は73.4%であり、前年同時点と比べ0.5ポイント上昇となった。



現場の動き(2026卒、2027卒の動きなど)

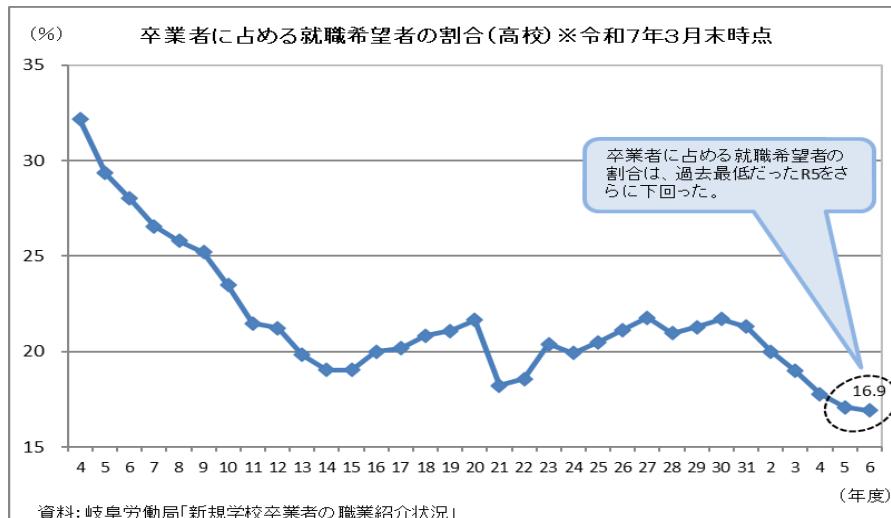
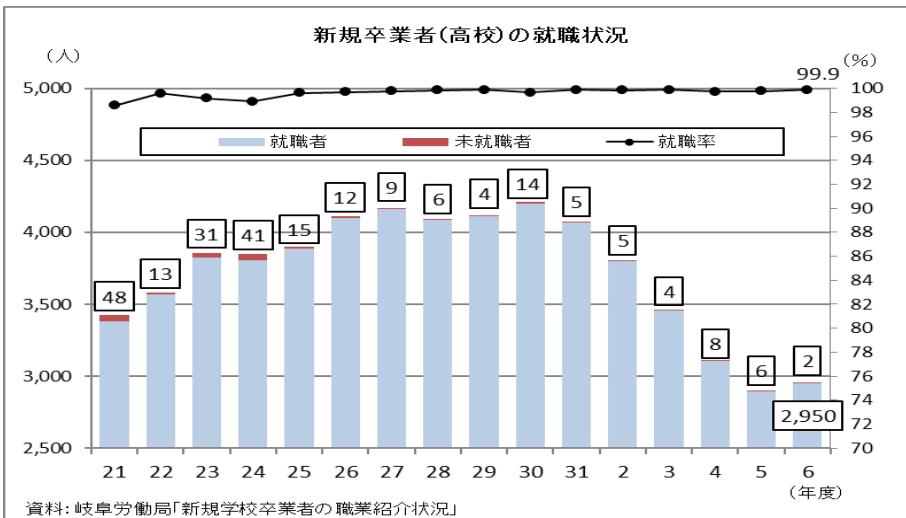
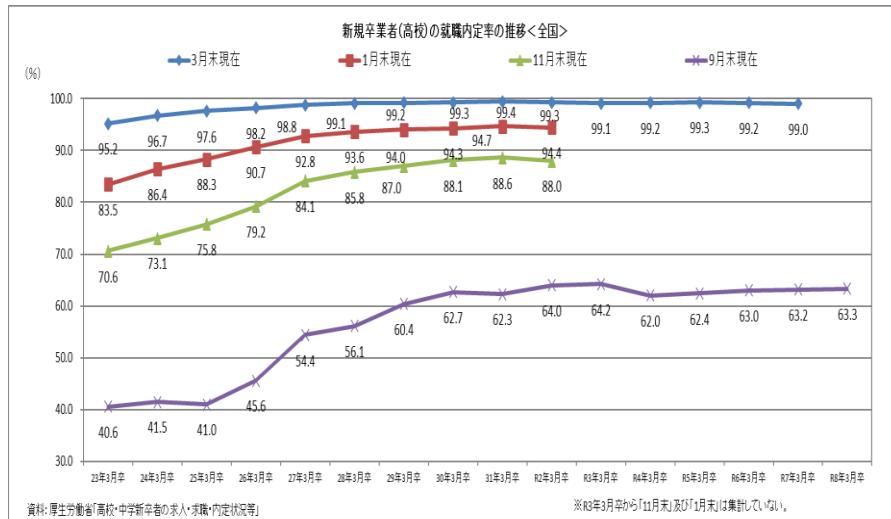
<大学へのヒアリング>

- ◆ 26年卒からの相談はほとんどない。内定率も今後9割を超える見込み。
- ◆ 27年卒からの相談は増加している。ESの添削や就活の進め方に関する相談が多く、内定を貰った学生も少ないがいる。

(以上、岐阜・愛知県内大学)

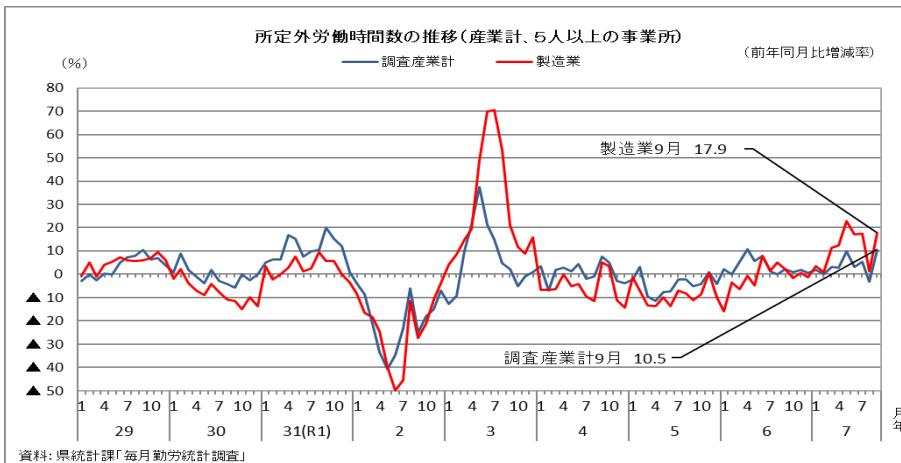
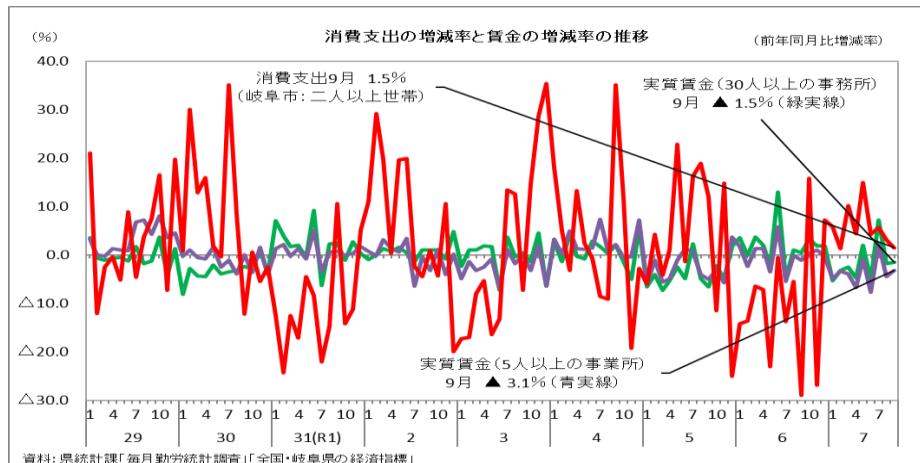
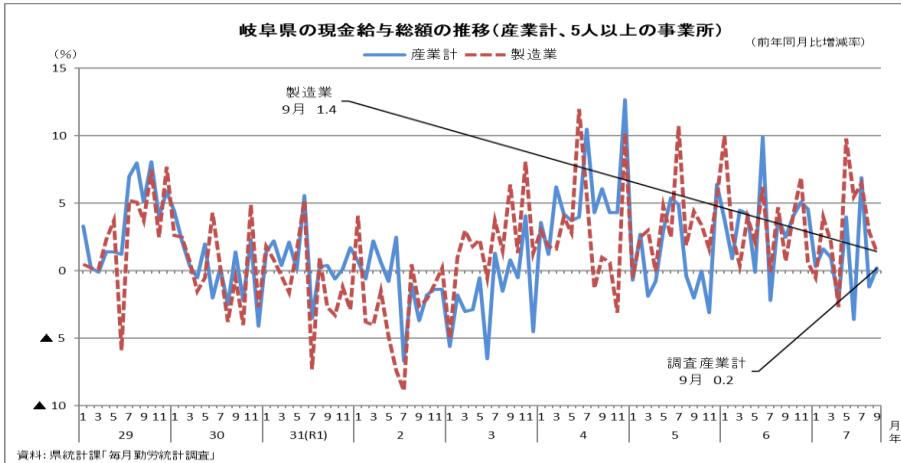
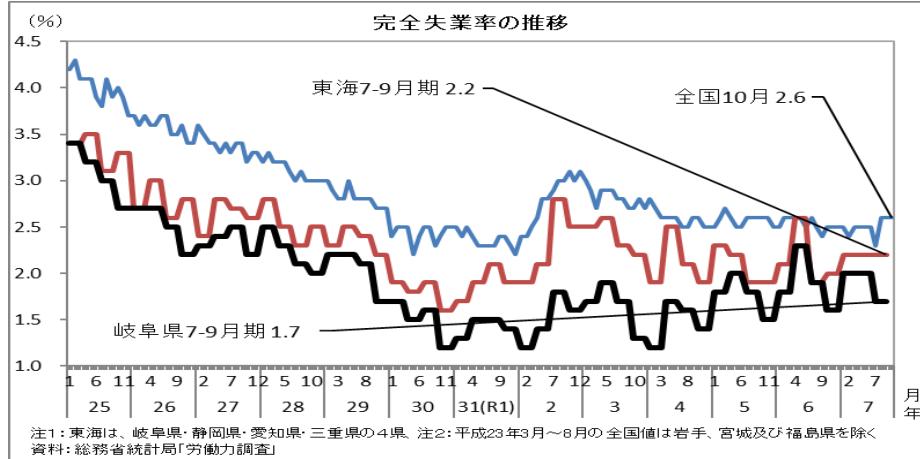
雇用(高校新卒者の就職)

- 岐阜県の令和7年9月末現在の高校卒業者(令和8年3月卒業)の就職内定率は66.3%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。
- 全国の令和7年9月末時点の高校卒業者(令和8年3月卒業)の就職内定率は63.3%であり、前年同時点と比べ0.1ポイント上昇した。



雇用(完全失業率等)

- 全国の10月の完全失業率は2.6%で前月比同率となった。岐阜県の7-9月期の平均は1.7%で前期比▲0.3%となった。
 - 9月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比0.2%、製造業で同1.4%増加となった。
 - 9月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比▲1.5%、5人以上で▲3.1%となった。9月の消費支出については同1.5%増加となった。
 - 9月の所定外労働時間数は前年同月比で10.5%増加となった。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、9月の鉱工業生産指数は前月比▲2.1%となった。ヒアリングでは、大手自動車メーカーは好調だが、あまり実感はなく前年同月比で同水準が続いているとの声や受注出荷、在庫状況も計画通りだが、今年度末で大手自動車メーカーの人気車種の部品生産が打ち切りとなり、新しいモデルの受注もないため、今後の減収減益は避けられないとの声が聞かれる。
- 地場産業は、9月の鉱工業生産指数は繊維工業、窯業・土石、食料品で上昇した。ヒアリングでは、インバウンド需要の高まりと、多少高額でも良質な商品を購入する人が増えたため、売上は一昨年度から好調であり、受注を受けても在庫がない状態が続いているとの声が聞かれる一方で、賃金上昇や原材料の高騰のペースに追いついておらず利益率はあまり改善していないとの声が聞かれた。
- 設備投資は、10月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比16.9%増加となった。ヒアリングでは、以前使用していた機械の老朽化に伴い、合理化のため機械の更新を行うとの声や自動検査機や省人化のための設備を導入予定との声が聞かれた。
- 個人消費は、10月の販売額は、全体で前年同月比2.6%増加となった。ヒアリングでは、シネコンの好調継続に加えて、気温低下に伴い重衣料や季節家電等の季節商材の売上が伸長との声が聞かれる一方で、価格を上げた商品が大きく売上を落としているので、11月より大きく値上げがあった原材料もあるが、価格の転嫁は控えているとの声が聞かれた。
- 観光は、宿泊者数は前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、観光客数、宿泊者数とともにコロナ前と同程度まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人材を活用する施設もあった。
- 企業の資金繰りは、10月の制度融資実績は金額で15ヶ月ぶりに増加となった。利上げ局面である意識は事業者にも浸透しているため、金利を気にしての資金需要の増減はないとの声が聞かれた。
- 雇用面は、10月の有効求人倍率は1.41倍と前月比▲0.05ポイントとなった。ヒアリングでは、採用面については、昨年度より新規採用も確保できているが、オペレーター業務を行える男性社員を確保したいため、今後も中途採用を含め取り組んでいくとの声が聞かれた。待遇面については、最低賃金の引き上げは加工代金の増加に繋がるため、より経営が苦しくなるとの声や賃金引き上げのペースが早く、上昇ペースにまだまだ業績が追い付いていないので負担になっているとの声が聞かれた。